

平成30年度 行政評価シート

施設名	旭川市科学館	所在地	旭川市宮前1条3丁目3番32号		
担当部局	社会教育部 旭川市科学館	電話番号	(0166)31-3186	内線	448

1 施設の概要

設置目的	博物館法(昭和26年法律第285号)の規定に基づき、科学の理解、普及、学習及び研究に資するため設置した。				
設置根拠	博物館法第18条				
設置年月日	昭和38年11月1日	増改築	平成17年7月23日		
建設費(単位:千円)	(新築時)	128,910	(増改築時)	4,814,322	
規模・構造等	敷地面積27,099.65㎡, 建築面積4,567.12㎡, 延床面積5,799.60㎡/鉄筋コンクリート造・一部プレストレストコンクリート造及び鉄骨造, 4階建/室名:常設展示室, シアター, プラネタリウム, 天文台, 特別展示室, 学習研修室, 理科実験室, 電子工作室, パソコン実習室, 木工室, レファレンスルーム				
利用対象者	青少年・その他一般市民				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示室及びプラネタリウム, 天文台等の運営 ・各種の実験実習事業の開催・指導 ・特別展, 企画展, その他科学に関する普及・理解促進事業の実施 				
運営方法	<input type="checkbox"/> 直営	(平成30年度の職員体制) 正職員 11人, 臨時職員 5人, 嘱託職員 12人			
	<input checked="" type="checkbox"/> 直営(一部業務委託)	(委託内容) 受付・展示機器操作管理業務, 清掃業務, 施設維持管理業務等			
料金制度	<input checked="" type="checkbox"/> 使用料 <input type="checkbox"/> その他()				
減免制度	高齢者(旭川市及び近隣8町の70歳以上), 障害者及び介助者, その他				
類似施設 (民間の施設を含む)	市内には無し				
類似施設との違い					

2 管理運営の状況

(1) 管理経費

(単位:千円)

年度		H27年度 (決算)	H28年度 (決算)	H29年度 (決算)	H30年度 (予算)	備考
内訳	人件費	100,011	101,217	102,177	103,544	
	正職員	80,201	78,485	79,167	80,531	
	臨時・嘱託職員	19,810	22,732	23,010	23,013	
需用費	燃料費	5	8	12	6	
	光熱水費	35,079	31,733	34,580	32,610	
	修繕料	393	399	396	400	
	消耗印刷費	3,650	3,192	2,710	2,736	
	委託料	99,048	97,424	104,054	109,425	
使用料・賃借料	2,137	2,110	2,465	3,675		
その他	10,097	7,950	6,825	7,128	報償費, 旅費, 通信運搬費, 手数料, 災害保険料, 負担金	
合計(A)		250,420	244,033	253,219	259,524	
収入	使用料	19,397	17,704	17,182	31,517	
	諸収入	422	390	384	350	行政財産使用料等
	合計(B)	19,819	18,094	17,566	31,867	
差引(合計(A)-合計(B))		230,601	225,939	235,653	227,657	

※人件費(正職員分)は、1人当たり平成27年度7,291千円、平成28年度7,135千円、平成29年度7,197千円、平成30年度7,321千円で計算すること。

(2) 利用状況

内訳	年度	H27年度 (実績)	H28年度 (実績)	H29年度 (実績)	H30年度 (見込み)	備考
総利用件数(単位:人)		248,139	217,090	225,854	280,000	
うち免除利用分		12,186	11,073	10,210	13,560	
うち減額利用分		3,343	4,573	4,131	4,880	リンクリンクミュージアム等
各室 利用率 (単位:%)	特別展示室	58%	55%	61%	58%	
	学習・研修室	65%	63%	68%	65%	
【参考値】 利用者一人当たりの 市費投入額(千円) (管理経費÷総利用件数)		0.93	1.04	1.04	0.81	

(3) 市民ニーズの把握

把握 方法	■ アンケート調査(実施時期, 提出件数等)	4月～3月, 1,086件(事業アンケート)
	■ 意見箱の設置(設置数, 提出件数等)	1箇所設置。平成29年度は53件(感想15件・意見24件・苦情14件)
	■ その他の方法(実施時期, 方法等)	科学館協議会(年2回, 会議・発言方式) サイエンスボランティア旭川役員会(3回)及び総会(1回)
主な 意見 と 対応 状況	主な意見	対応状況
	もっと新しいものを作ってほしい。	プラネタリウムのオーバーホールを実施, ドームシアター番組を更新
	プラネタリウム注意事項時の説明映像が不鮮明	背景画像の照度を落として, 説明映像を拡大投影し改善
	展示説明に対する苦情	その都度報告し, ボランティア内で注意を促す。
	地震体験の体験時間が長すぎる。	システム上, 時間短縮は難しいことを説明し理解を求める。
プラネタリウムの解説が早口で聞きとりにくい。	担当者へゆっくり話すよう心掛けるように指導	

(4) サービス向上, 利用者増に向けた取組, 業務改善, 経費削減などの取組(業務委託は次項に記載)

取組内容	実績・成果
臨時開館(1月2日等), 6月～9月原則無休開館	平成29年度実績 臨時開館 2,146人, 無休開館(月曜日来館者) 8,578人
大人向けのプラネタリウム番組の投影や講座を実施	多数の参加者から大変好評である。 新たな層の掘り起こしができた。
夏・冬休み期間に合わせて, 企画展の実施とプラネタリウムの特別番組を上映	平成29年度の企画展参加者 34,575人
プラネタリウムのオーバーホール等施設の補修・改修を実施	利用者が安心・安全に使用できる施設の維持・管理を行った。
学校団体の受入やプラネタリウムを使用した授業への協力	市内のみならず市外の学校誘致へも繋がっている。 平成29年度 市外の小中高校の来館状況 小学校100校, 中学校47校, 高校17校
今後の予定	アウトリーチ事業等を行い学校との連携を図る。 ※アウトリーチ事業…学校教育の補完を目的に行う出前講座などの学社連携事業

(5) 業務委託の実績と予定

業務委託の実績	年度	内容
業務委託の実績	H17～	機械警備業務, 常駐警備業務(H28年度以降は施設維持管理業務)の委託
		清掃業務の委託
		展示機器操作管理・受付案内業務の委託
今後の予定	未定	

(6) 指定管理者制度の導入について

指定管理者の担い手	<input type="checkbox"/> 担い手になりうる団体がある				
	↳ <input type="checkbox"/> 市内 <input checked="" type="checkbox"/> 市内にはないが市外にはある				
	<input type="checkbox"/> 現時点では、担い手になりうる団体がない				
説明	道内では、札幌市青少年科学館は「(公財)札幌市生涯学習振興財団」が、釧路こども遊学館は「釧路市民文化振興財団、NPO法人こども遊学館ステージコンソーシアム」が、室蘭市青少年科学館は「NPO法人科学とものづくり教育研究会かもけん」がそれぞれ指定管理者として施設の運営を担っているが、旭川市については受皿となる企業・団体が出ないのが現状である。				
メリットの比較	サービス向上	<input type="checkbox"/> 市直営	<input type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入	<input checked="" type="checkbox"/> 不明
	コスト削減	<input type="checkbox"/> 市直営	<input type="checkbox"/> 同程度	<input type="checkbox"/> 指定管理者制度導入	<input checked="" type="checkbox"/> 不明
	説明	比較検証を実施したことがないので不明である。			
他市の導入状況	道内では札幌市青少年科学館、釧路市こども遊学館、室蘭市青少年科学館が導入。				

3 施設の課題

施設の補修・改修に係る経費なども含め、今後維持管理の費用が増えていくことが想定される。また、平成27年度まで毎年開催していた特別展が周年事業となったことから入館者数が減少しており、今後も来館者サービスに影響を与えることが予想される。

4 公共施設等総合管理計画(施設再編計画)における評価

A継続:単独施設	将来にわたり市が保有し続ける施設で、事業・設備の状況から、単独施設が望ましいもの。
----------	---

5 評価

(1) 1次評価(所管部局)

活動量と成果	説明 ※活動量とは、利用件数や利用率、事業の実施件数など
<input type="checkbox"/> 高い	年間の目標入館者数280,000人に対して平成29年度は225,854人の実績であったが、市・町立で北海道青少年科学館連絡協議会加盟館13施設のうち人口対比で5番目の入館者数であった。また、講座の受講者数など科学館事業活動等の参加者数(企画展を除く)は平成29年度の目標43,110人に対して34,595人ではあったが、新規事業の企画展では目標7,480人を大幅に上回る34,575人の実績であったことから、全体としてやや高いの評価とした。
<input checked="" type="checkbox"/> やや高い	
<input type="checkbox"/> 予定どおり	
<input type="checkbox"/> やや低い	
<input type="checkbox"/> 低い	
運営の効率性	説明
<input checked="" type="checkbox"/> 高い	管理経費で大きな割合を占める人件費については、業者への委託等で削減している。また、展示機器の解説や事業活動の指導員に「サイエンスボランティア旭川」の協力を得ていること等も併せると効率性は非常に高い。
<input type="checkbox"/> やや高い	
<input type="checkbox"/> 標準	
<input type="checkbox"/> やや低い	
<input type="checkbox"/> 低い	
評価及び見直しの内容	
活動量及び成果、効率性、いずれも高く、現行どおり施設の運営を進めて行くが、改善の余地があれば必要に応じて行う。	

(2) 外部評価(行財政改革推進委員会の意見)

評価及び見直しの内容
科学技術が日々進化する中で、リニューアルから13年が経過し機器の老朽化が目立つが、ソフト面の強化を継続するほか、企業や地場産業との連携による展示の充実化を検討すること。また、施設の存在意義や方向性を明確にした上で、それに沿った機器更新や事業を実施すること。 ボランティアの人数が減少しており、原因分析と対策を取ること。

(3) 2次評価(行政評価検討会議)

評価及び見直しの内容
入館者の年齢層に偏りが見られるため、館のコンセプトや方向性を明確にした上で、事業内容や機器の整備方針について検討していくこと。また、財政状況から機器の更新が難しくなっており、企業や地場産業との連携、ソフト面の強化を図ること。 サイエンスボランティアは施設運営にとって重要な存在であり、体制の維持に努めること。また、指定管理者制度の導入を具体的に検討すること。